

社会科学学習指導案

授業者：

授業参加者：

授業学級：5年2組(男子20名 女子18名 計38人) 会場5年1組教室

題材「山国長野県に鮮魚が届く仕組みとは～その奇跡を支えるおかげさまにせまる～」

15時間中の第5時

(1) 学習のねらい

常に100以上の漁港や加工工場と丸水長野県水が連携しあっていることに驚き、そのわけを考え始めた子どもたちが、丸水長野県水では、その日その日によって仕入れ先や量が変わることの理由を考えることを通して、丸水長野県水には日常的に小売店に安定した量や品質の魚を届ける役割があることに気づき、丸水長野県水の人のおかげで私たちは新鮮で良質な魚を安く手に入られることを確かめることができる。

(2) 本時の学習材

丸水長野県水(長野地方卸売市場)の、その日その日によって仕入れ先や量が変わる事例

- 常に100以上の漁港や加工工場と丸水長野県水が連携しあっていることに驚いた子どもたちは、そのわけを考え始めるだろう。このような意識を捉え、本学習材を提示する。
- 本学習材は、その日その日によって仕入れ先や量が変わる事例である。これは、丸水長野県水で働く内山さんが経験した、前日新潟市漁港で鰯・5kg入を100ケース仕入れたが、天候や価格の変動によって、その翌日は沼津漁港で鰯・5kg入を80ケース仕入れたというものである。学習材に触れた子どもたちは、この仕入れ先の変更の理由は、天候不順による不漁や、大漁による価格減少、品質の良し悪しではないかと予想するだろう。その意識を捉え、内山さんの発言を提示し、その理由を考えるよう促すことで、小売店に良質な鮮魚を安く届ける願いに気づいていくだろう。このように、小売店に毎日安定した質と量を届ける丸水長野県水の努力や願いに出合いながら、私たちが日常的に鮮魚を手に入れることの奇跡を支える、丸水長野県水のおかげさまに気づいていくことが期待できる。

(3) 学習の展開

過程	学 習 活 動	予想される子どもの動き	時間	指 導 と 評 価
課題把握	1. 丸水長野県水が常に100以上の漁港・加工工場と連絡を取り合っている事を思い出し、その理由を探る	・すげー、漁港ってこんなにあるの!? ・こんなにがあると、丸水の人は連絡するのに大変だよな 学習問題 なぜ、丸水長野県水は100以上の漁港や加工工場と連携するのだろう? ・そういえば、どうしてだろう ○近場の漁港だけでよくない? 学習課題		○全国各地の漁港や加工工場から丸水長野県水に魚が集まる事を、地図で表す。 ・大変さという意識を捉えたところで学習問題を提示する。 学習材 丸水長野県水の、その日その日によって仕入れ先や量が変わる事例
	その日その日によって市場が仕入れ先や量を変えている理由を探ろう!			○子どもから疑問の声が上がらない時は「なぜ仕入れ先を変えるのか」と問いかける。 ・子どもたちの予想を分類しながら板書していく。 ・日本を一周する回遊魚を想像した場合は、地図から地理的關係を確認し、その可能性が低いことに気づかせる。 ○値段や良質という意識に向いたところで、内山さんが仕入れ先を変えた理由を示す ○内山さんの願いに気づいたところで、学習活動3に入る。
展開	2. 日毎に仕入れ先や量を変える理由を探る活動を通し、丸水長野県水の願いを考える	・新潟で天候が悪くて鰯が釣れなかったからじゃない? ・回遊魚だから、獲れる港が変わったからだと思う。 ・沼津で大漁に獲れたら、値段が安くなって、そっちを買おうと思う。 ・沼津の方が、翌日は良質だったからだと思う。 ・でも、内山さんが仕入れ先を変えた理由は、全て私たちのためだね。 ○内山さんは、新鮮で良質な魚を小売店に安く届けようとしている!		
終末	3. どのように考えたかを学級で共有し、活動の振り返りをする。	・丸水長野県水の人は、新鮮で良質な魚を安く手に入れるために、100以上の漁港や加工工場と連絡を取り合っている事がわかった ・それは、私たち消費者や、小売店のためだね ○私たちは、丸水長野県水の人のおかげさまで、美味しい鮮魚を食べる事が出来るんだね		評 価 丸水長野県水の人のおかげで、小売店は鮮魚を安定して売ることが出来、私たちは新鮮で良質な魚を安く手に入られる事を確かめる事ができる。 ・より実感を持たせるために、実習生が鮮魚を食べる写真や、内山さんのやりがいを感じた経験を示す。

